

拒絶理由通知書

特許出願の番号	平成11年 特許願 第113997号
起案日	平成16年 2月13日
特許庁審査官	五貫 昭一 9368 5D00
特許出願人代理人	三好 秀和 様
適用条文	第29条第2項

この出願は、次の理由によって拒絶をすべきものである。これについて意見があれば、この通知書の発送の日から60日以内に意見書を提出して下さい。

理 由

この出願の請求項1～12に係る発明は、その出願前日本国内において頒布された下記の刊行物に記載された発明に基いて、その出願前にその発明の属する技術の分野における通常の知識を有する者が容易に発明をすることができたものであるから、特許法第29条第2項の規定により特許を受けることができない。

記**引用文献：**

1. 特開平5-266495号公報
2. 特開平5-67382号公報
3. 特開昭62-22248号公報

請求項1、2に係る発明について……上記引用例1、2

引用例1には、光ディスク装置をカートリッジとして用いる構成が記載されている（段落番号0068、0069、0262、及び、図1、図33参照）。

また、引用例2には、カートリッジ内に光ディスクと可動光学系を配置すると共に、装置側に固定光学系を配置する構成が記載されている（段落番号0017、0020、及び、図1～図5参照）。

そして、引用例1の発明においても、引用例2の上記構成を適用することにより本願請求項1、2に係る発明の構成とすることは、当業者が容易に想到し得たものと認められる。

請求項3に係る発明について……上記引用例1、2

「反射板」を設けたことによる格別の効果が全く不明である以上、この点に何ら格別の差異は見出せない。

請求項 4 に係る発明について……上記引用例 1、2

ロック機構を設けることは、通常のカートリッジ形式の装置において慣用されている。

請求項 5、6 に係る発明について……上記引用例 1、2

当該各請求項に記載された構成は、一般的なハードディスク装置に用いられている構成から容易に転用し得るものにすぎない。

請求項 7、8 に係る発明について……上記引用例 1 ～ 3

引用例 3 には、複数の回転モータと、複数の可動光学系と、単一の固定光学系とを用いる構成において、固定光学系から出射された光ビームを複数の可動光学系に選択的に向かわせる構成が記載されている（第 3 頁左上欄第 16 行～右上欄第 3 行、及び、第 1 図参照）。

そして、引用例 1、2 に基づいて得られるカートリッジ型光ディスク装置が用いられる装置として引用例 3 の上記構成を採用することにより本願請求項 7、8 に係る発明の構成とすることは、当業者が容易に想到し得たものと認められる。

請求項 9 に係る発明について……上記引用例 1 ～ 3

光学系を位置調整可能な構成とすることは慣用手段である。

請求項 10～12に係る発明について……上記引用例 1～3

請求項 1 ～ 9 に関する記載参照。

先行技術文献調査結果の記録

・調査した分野	I P C第7版	G 1 1 B	2 5 / 0 4
		G 1 1 B	7 / 1 3 5

この先行技術文献調査結果の記録は、拒絶理由を構成するものではない。